



## 25 日（月）祭壇の角のところまで

詩篇 118：27「枝をもって、祭りの行列を組め。祭壇の角のところまで。」

主よ、過越の祭りのために巡礼した人々の最終目的地が祭りではなく、祭壇の角、つまり至聖所の贖いにあったように、私たちの営みの最終目的地は、十字架です。

今週、忙しいことがたくさんあります。そして受難週です。私たちのなすことのすべてが十字架に至りますように。巡礼の旅路であるかのように、十字架を目指すことができますように私を導いてください。

## 26 日（火）私もまた

ルカ 19:9「きょう、救いがこの家に来ました。この人もアブラハムの子なのですから。」

イエスさま、あなたはそうにして、嫌われ者のザーカイを神の家族に招き入れてくださいました。だれにも相手にされず、社会のはみ出し者であったザーカイを、「この人もまた」と言って、招いてくださいました。

イエスさま、私はザーカイです。あなたが私を「この人もまた」と、私のようなものに手を差しのばして下されなければ、私は神の家族に入ることはありませんでした。

あなたの憐れみに感謝します。同時に、私もイエスさまのように、手を差しのばす者とならせてください。



## 27 日（水）イエスの涙

ルカ 19:41～42「エルサレムに近くなった頃、都を見られたイエスは、その都のために泣いて、言われた。」

主よ、あなたが日本を、また私たちの町をご覧になったとき、あなたを受け入れようとしないうちにこの国に涙されることでしょうか。

では主よ、私の教会は、私の家族は、私の心はどうでしょうか。ご覧になってください。あなたを喜んで受け入れる素直な心なのか。

あなたの涙が、裁きではなく愛故の涙であることを感謝します。どうか、私の心に、私の生活の中心にあなたをお迎えする日でありますように。

また、あなたの涙に、この思いを重ねて、あなたを受け入れようとしないうちにこの世界のために祈ることができますように。

## 28 日（木）喜びの食卓

ルカ 22:14～15「さて時間になって、イエスは食卓に着かれ、使徒たちもイエスといっしょに席に着いた。イエスは言われた。『わたしは、苦しみを受ける前に、あなたがたといっしょに、この過越の食事をするをどんなに望んでいたことか。』」



食卓の主よ、私と共に食卓についてください。今日の一日、一回の食事結構です。私が祈るとき、私と共に食してくださることを実感させてください。

そして、食事をおいしくしてください。なぜなら、あなたが私を楽しませてくださるからです。食事をもってあなたの力をこの身体と心とに与えてください。疲れた心を癒し、希望の光で力づけてください。

## 29 日（金）思い出してください

ルカ 23:42「イエスさま。あなたの御国の位にお着きになるとき、私を思い出してください。」

主よ、私の罪と愚かさを思い出さないでください。ただ恵みのうちに私を覚えてください。

私が人から見捨てられるようなとき、私が孤独の中に置き去りにされるとき、いくら祈ってもなかなか事が展開しないとき、私があきらめかけてしまうとき、私は力を振り絞って祈ります。「イエスさま、私を思い出してください。」

その時、あの十字架上の犯罪人にあなたが答えられたように、私にも聞かせてください。

「まことにあなたに告げます。あなたはきょう、わたしとともにパラダイスにいます」と。

決して忘れられていない、いつも思い出してくださいあなたの憐れみを、この哀れな寂しい心に届けてください。



## 30 日（土）心を燃やしてください

ルカ 24:32「そこでふたりは話し合った。『道々お話になっている間も、聖書を説明してくださった間も、私たちの心はうちに燃えていたではないか。』」

主よ、私がエマオの途上の 2 人の弟子たちのように、暗い顔で道を歩いているとき、そっと近づいてください。きっと、私も鈍い者で、あなたの存在がわからないかもしれません。

それでも主よ、あの弟子たちにしてくださったように、私にもみことばを与え、みことばを説き明かし、そのことばを私のたましいに響かせて、この心を温めてください。

年度替わりです。勇気が必要です。私の心を温めて、「恐れるな。わたしが共にいる」と。



明日はイースターの礼拝です。私も行くことができますように導いてください。日本中の教会のイースターが希望にあふれることができますように。

## みことばとともに歩む 受 難 週

2013

3月25日（月）～ 3月30日（土）

